

# 施策評価表

令和4年度分

① 施策コード	8・1・1								
② 施策名	定住につながる魅力的な住環境の整備	評価担当課	子育て定住推進課	総合戦略	行政経営	過疎	○	-	○
③ 目標	若者定住対策による活気あるまちづくりに満足している町民の割合		丸森町は住みよいまちと感じている町民の割合						
④ 現状と課題	◆ 本町の急速な少子高齢化の要因の一つとして、若年層が安定的な雇用や快適な住居を求めて都市へ流出していることがあげられます。これまでも新婚・子育て世代など若者の町内定住を促進するため、定住施策の充実に努めてきましたが、更なるニーズに応じた「若者定住対策」を推進する必要があります。 ◆ 多くの人が「住んでみたい」「住み続けたい」と思える、快適で魅力的な住環境の整備が求められています。 ◆ 町営住宅を284戸(平成26年12月現在)運営管理していますが、老朽化の進んだ住宅については、修繕や建替えによる計画的な維持管理が必要となります。		施策の内容	新婚・子育て世代に対して、若者定住促進住宅や定住促進団地の提供、新築やリフォーム住宅取得、賃貸住宅家賃支援を行うとともに、民間業者へのアパート経営事業や宅地開発事業への支援による若者定住施策を推進します。 また、移住を希望する方に対して、地域が主体となった受入体制を促進することで幅広い世代の定住促進を図ります。地域の資源を活かした魅力的な住環境の整備と宅地造成事業による定住施策を推進します。					

## ⑥ 目標指標

指標名	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					計画目標値(R6年度)		
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	上段:達成率(R4実績/R4目標) 下段:達成率(R4実績/R5目標)	R6年度	達成率(R4実績/R6目標)
新たに定住した人数	人	21	20	20	20	25	25	1	30	1.00
移住相談件数	件		60	60	60	60	60	1	10	5.70
移住相談実施回数	回/年		4	4	4	4	4	1	4	1.25
希望者に提供できる空き家の数	戸		20	20	20	20	20	2	20	2.30
定住促進住宅整備戸数	戸	44	60	66	66	66	66	1	68	0.97
まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					計画目標値(R6年度)		
新たに定住した人数	人	21	20	20	20	25	25	1	30	1.00
定住促進住宅整備戸数	戸	44	60	66	66	66	66	1	68	0.97

構成事務事業の事業費合計(単位:千円)

⑦ 構成事務事業の事業費の合計	R元年度	R2年度	R3年度	令和4年度	令和5年度(計画)	令和6年度(計画)
	39,259	130,132	61,561	46,337	69,307	68,621

## 取組の総括

⑧ 1年間の主な取組と成果	「略」	
⑨ 施策の進行管理(構成事務事業の評価結果をもとにした施策の進捗状況の判定)	◎	【◎】おおむね順調 【○】いっそうの推進が必要 【△】抜本的に見直しや改善が必要
⑩ 今後の取組	「略」	

## 構成事務事業の評価結果

事務事業別	11 事業	平均点
●成果	A 5事業 (45.5%)	1.3
	B 4事業 (36.4%)	
	C 2事業 (18.2%)	
	未実施 事業 (0.0%)	
●コスト	A 10事業 (90.9%)	1.9
	B 1事業 (9.1%)	
	C 事業 (0.0%)	
	未実施 事業 (0.0%)	
●進捗率	A 8事業 (72.7%)	1.5
	B 1事業 (9.1%)	
	C 2事業 (18.2%)	
	未実施 事業 (0.0%)	
※平均点は「A」2点、「B」1点、「C」0点として算出		1.6

⑪ 次年度以降の方針(主担当課)	現状維持	【説明欄】 移住・定住サポートセンターに移住コーディネーターを配置して、より一層移住相談等に丁寧に対応するとともに、広報活動に取り組み移住・定住の促進を図る。
委員会評価	現状維持	【委員会意見欄】 担当課評価のとおり。

# 施策評価表

令和4年度分

① 施策コード	8・1・2								
② 施策名	良好な住環境の形成	評価担当課	建設課	総合戦略	行政経営	過疎	○	-	○
③ 目標	若者定住対策による活気あるまちづくりに満足している町民の割合		丸森町は住みよいまちと感じている町民の割合						
④ 現状と課題	<p>◆ 本町の急速な少子高齢化の要因の一つとして、若年層が安定的な雇用や快適な住居を求めて都市へ流出していることがあげられます。これまでも新婚・子育て世代など若者の町内定住を促進するため、定住施策の充実に努めてきましたが、更なるニーズに応じた「若者定住対策」を推進する必要があります。</p> <p>◆ 多くの人が“住んでみたい”“住み続けたい”と思える、快適で魅力的な住環境の整備が求められています。</p> <p>◆ 町営住宅を284戸（平成26年12月現在）運営管理していますが、老朽化の進んだ住宅については、修繕や建替えによる計画的な維持管理が必要となります。</p>		施策の内容	<p>新婚・子育て世代に対して、若者定住促進住宅や定住促進団地の提供、新築やリフォーム住宅取得、賃貸住宅家賃支援を行うとともに、民間業者へのアパート経営事業や宅地開発事業への支援による若者定住施策を推進します。</p> <p>また、移住を希望する方に対して、地域が主体となった受入体制を促進することで幅広い世代の定住促進を図ります。地域の資源を活かした魅力的な住環境の整備と宅地造成事業による定住施策を推進します。</p>					

## ⑥ 目標指標

指標名	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					計画目標値(R6年度)		
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	上段:達成率(R4実績/R4目標) 下段:達成率(R4実績/R5目標)	R6年度	達成率(R4実績/R6目標)
快適に暮らせる町営住宅(定住含む)	戸	106.00	272	123	203	239	287	1	305	0.69
			102	123	115	209		1		
							#DIV/0!		#DIV/0!	
							#DIV/0!		#DIV/0!	
まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					計画目標値(R6年度)		
快適に暮らせる町営住宅(定住含む)	戸	106.00	272	123	203	239	287	1	305	0.69
			102	123	115	209		1		

構成事務事業の事業費合計(単位:千円)

⑦ 構成事務事業の事業費の合計	R元年度	R2年度	R3年度	令和4年度	令和5年度(計画)	令和6年度(計画)
	24,476	263,901	17,005	285,529	1,547,741	46,751

## 取組の総括

⑧ 1年間の主な取組と成果	「略」	
⑨ 施策の進行管理(構成事務事業の評価結果をもとにした施策の進捗状況の判定)	◎	<p>【◎】おおむね順調</p> <p>【○】いっそうの推進が必要</p> <p>【△】抜本的に見直しや改善が必要</p>
⑩ 今後の取組	「略」	

## 構成事務事業の評価結果

事務事業部	10	事業	平均点
●成果	A	6事業 (60.0%)	1.4
	B	2事業 (20.0%)	
	C	2事業 (20.0%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
●コスト	A	8事業 (80.0%)	1.8
	B	2事業 (20.0%)	
	C	事業 (0.0%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
●進捗率	A	7事業 (70.0%)	1.5
	B	1事業 (10.0%)	
	C	2事業 (20.0%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
			1.6

※平均点は「A」2点、「B」1点、「C」0点として算出

⑪ 次年度以降の方針(主担当課)	見直しのうえ継続	【説明欄】 令和元年度日本台風災害による被災者を対象とした災害公営住宅の整備及び被災した町営住宅の再建を令和2年6月に策定した整備方針に基づき迅速かつ計画的に進めるとともに、将来にわたり安心して住める住宅の提供するため、町営住宅等長寿命化計画を作成により、計画的な維持管理を行う。
委員会評価	見直しのうえ継続	【委員会意見欄】 担当課評価のとおり。

# 施策評価表

令和4年度分

① 施策コード	8・2・1								
② 施策名	阿武隈急行線の利用促進及び支援	評価担当課	企画財政課	総合戦略	行政経営	過疎	○	-	○
③ 目標	公共交通の利便性に満足している町民の割合								
④ 現状と課題	<p>◆ 鉄道は、福島～槻木を結ぶ阿武隈急行線が南北に通り、最寄り駅としてあぶくま駅、丸森駅、北丸森駅の3駅があります。通勤・通学の利用だけではなく、本町への観光客の交通手段としての役割を担っていますが、乗降客数は減少傾向にあります。町では、通勤・通学者を対象とした通勤定期券・運賃の助成や、観光客向けのお買物券サービスなど、阿武隈急行線の利用促進に向けた様々な事業を展開しています。</p> <p>◆ 町民の身近な交通機関である町民バス、予約型乗合タクシー「あし丸くん」を運行しています。特に、「あし丸くん」は、自宅から町中心部のまちなか拠点施設まで運行しており、町民が利用しやすい交通手段となっています。</p> <p>◆ 急速な高齢化によって、誰もが安心して利用できる移動手段として、その役割がますます期待されることから、町民・行政・交通事業者が連携をとりながら、ニーズに合った公共交通環境の整備が求められています。</p>			施策の内容	本町にとって欠かせない公共交通機関である阿武隈急行線については、適切な駅施設の維持管理を行い、利用しやすい環境を整えるとともに、安全な運行に必要な車両等の修繕や設備導入などを支援します。また、阿武隈急行線に関する各種イベントの開催や情報誌の発行などにより利用促進を図ります。				

## ⑥ 目標指標

指標名	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					計画目標値(R6年度)		
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	上段:達成率(R4実績/R4目標) 下段:達成率(R4実績/R5目標)	R6年度	達成率(R4実績/R6目標)
阿武隈急行線利用者数	千人	187	210	179	179	179	179	0.76	179	0.76
			125	90	134	136		0.76		
								#DIV/0!		
<p>まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI</p>										
阿武隈急行線利用者数	千人	187	210	179	179	179	179	0.76	179	0.76
			125	90	134	136		0.76		
								#DIV/0!		

構成事務事業の事業費合計(単位:千円)

構成事務事業の事業費の合計	R元年度	R2年度	R3年度	令和4年度	令和5年度(計画)	令和6年度(計画)
	22,226	63,193	63,414	133,966	80,452	34,140

## 取組の総括

⑧ 1年間の主な取組と成果	「略」
⑨ 施策の進行管理(構成事務事業の評価結果をもとにした施策の進捗状況の判定)	○ 【◎】おおむね順調 【○】いっそうの推進が必要 【△】抜本的に見直しや改善が必要
⑩ 今後の取組	「略」

## 構成事務事業の評価結果

事務事業別	3	事業	平均点
●成果	A	1事業 (33.3%)	1.0
	B	1事業 (33.3%)	
	C	1事業 (33.3%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
●コスト	A	1事業 (33.3%)	1.0
	B	1事業 (33.3%)	
	C	1事業 (33.3%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
●進捗率	A	2事業 (66.7%)	1.7
	B	1事業 (33.3%)	
	C	事業 (0.0%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
※平均点は「A」2点、「B」1点、「C」0点として算出			1.2

⑪ 次年度以降の方針(主担当課)	見直しのうえ継続	【説明欄】 本町にとって欠かせない公共交通機関である「阿武隈急行線」については、適切な駅施設の維持管理を行い、利用しやすい環境を整えるとともに、安全な運行に必要な車両及び設備の導入や修繕などを支援します。また、「阿武隈急行線」に関する各種イベントの開催や情報誌の発行などにより利用促進を図ります。
委員会評価	見直しのうえ継続	【委員会意見欄】 担当課評価のとおり。

# 施策評価表

令和4年度分

① 施策コード	8・2・2								
② 施策名	身近な公共交通手段の確保	評価担当課	企画財政課	総合戦略	行政経営	過疎	○	-	○
③ 目標	公共交通の利便性に満足している町民の割合								
④ 現状と課題	<p>◆ 鉄道は、福島～槻木を結ぶ阿武隈急行線が南北に通り、最寄り駅としてあぶくま駅、丸森駅、北丸森駅の3駅があります。通勤・通学の利用だけでなく、本町への観光客の交通手段としての役割を担っていますが、乗降客数は減少傾向にあります。町では、通勤・通学者を対象とした通勤定期券・運賃の助成や、観光客向けのお買物券サービスなど、阿武隈急行線の利用促進に向けた様々な事業を展開しています。</p> <p>◆ 町民の身近な交通機関である町民バス、予約型乗合タクシー「あし丸くん」を運行しています。特に、「あし丸くん」は、自宅から町中心部のまちなか拠点施設まで運行しており、町民が利用しやすい交通手段となっています。</p> <p>◆ 急速な高齢化によって、誰もが安心して利用できる移動手段として、その役割がますます期待されることから、町民・行政・交通事業者が連携をとりながら、ニーズに合った公共交通環境の整備が求められています。</p>			施策の内容	町民の身近な交通手段である町民バスの運行や予約型乗合タクシー「あし丸くん」への運行支援等を行い、町民の身近な公共交通を確保し安心・安全で快適な暮らしを支えます。				

## ⑥ 目標指標

指標名	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					計画目標値(R6年度)		
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	上段:達成率(R4実績/R4目標) 下段:達成率(R4実績/R5目標)	R6年度	達成率(R4実績/R6目標)
バス等公共交通利用者数(阿武隈急行線除く)	人	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	0.53	70,000	0.53
			49,994	41,539	40,035	37,184		0.53		
								#DIV/0!		
<p>まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI</p>										
バス等公共交通利用者数(阿武隈急行線除く)	人	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	0.53	70,000	0.53
			49,994	41,539	40,035	37,184		0.53		
								#DIV/0!		

構成事務事業の事業費合計(単位:千円)

構成事務事業の事業費の合計	R元年度	R2年度	R3年度	令和4年度	令和5年度(計画)	令和6年度(計画)
	58,996	61,707	63,790	77,272	80,616	77,100

## 取組の総括

⑧	1年間の主な取組と成果	「略」
⑨	施策の進行管理 (構成事務事業の評価結果をもとにした施策の進捗状況の判定)	△ 【◎】おおむね順調 【○】いっそうの推進が必要 【△】抜本的に見直しや改善が必要
⑩	今後の取組	「略」

## 構成事務事業の評価結果

事務事業別	3	事業	平均点
●成果	A	1事業 (33.3%)	1.0
	B	1事業 (33.3%)	
	C	1事業 (33.3%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
●コスト	A	事業 (0.0%)	0.7
	B	2事業 (66.7%)	
	C	1事業 (33.3%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
●進捗率	A	1事業 (33.3%)	0.7
	B	事業 (0.0%)	
	C	2事業 (66.7%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
※平均点は「A」2点、「B」1点、「C」0点として算出			0.8

⑪	次年度以降の方針 (主担当課)	見直しのうえ継続 【説明欄】 現在の公共交通体系は維持を基本に進める一方で、阿武隈急行線を含めた、総合交通体系の見直しを視野に、利用状況の調査を進める。一方で、行政主導による公共交通網整備は、人口減少に反比例する事業費増大が近い将来大きな課題になることが予想されるため、地域主体による地域内の移動手段の確保について引き続き検討を進めていく。
	委員会評価	見直しのうえ継続 【委員会意見欄】 担当課評価のとおり。

# 施策評価表

令和4年度分

① 施策コード	8・3・1								
② 施策名	広域交通体系の整備	評価担当課	建設課	総合戦略	行政経営	過疎	○	-	-
③ 目標	幹線道路(国・県道)の整備に満足している町民の割合		生活道路(身近な道路)の整備に満足している町民の割合						
④ 現状と課題	◆ 広域幹線道路としては、相馬市～角田市～白石市を連絡する国道113号、角田市～福島県伊達市を連絡する国道349号が通っています。これらの路線と主要地方道3路線、一般県道7路線が接続し、幹線道路網が形成されています。 ◆ 生活道路については、これまで計画的に整備を進めてきましたが、多くの路線において、幅員が狭く、全体的に損傷が進んでいることから、計画的な改良・補修を行い、安全で快適な道路環境を整備が求められています。		施策の内容	隣接市町とともに町内の各地域を結ぶ、国道113号、349号及び主要地方道丸森霊山線等の広域的な交通体系の骨格を形成するアクセス道路については、整備促進や全面改良に向けた要望活動を進めます。					

## ⑥ 目標指標

指標名	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					計画目標値(R6年度)		
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	上段:達成率(R4実績/R4目標) 下段:達成率(R4実績/R5目標)	R6年度	達成率(R4実績/R6目標)
要望路線着工率	%	20.00	80	80	100	100	100	1.00	100	1.00
			80	80	100	100		1.00		
								#DIV/0!		
まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI										
要望路線着工率	%	20.00	80	80	100	100	100	1.00	100	1.00
			80	80	100	100		1.00		
								#DIV/0!		

構成事務事業の事業費合計(単位:千円)

⑦ 構成事務事業の事業費の合計	R元年度	R2年度	R3年度	令和4年度	令和5年度(計画)	令和6年度(計画)
	151	90	1,136	92	140	154

## 取組の総括

⑧ 1年間の主な取組と成果	「略」
⑨ 施策の進行管理(構成事務事業の評価結果をもとにした施策の進捗状況の判定)	◎ 【◎】おおむね順調 【○】いっそうの推進が必要 【△】抜本的に見直しや改善が必要
⑩ 今後の取組	「略」

## 構成事務事業の評価結果

事務事業別	4	事業	平均点
●成果	A	2事業 (50.0%)	1.0
	B	事業 (0.0%)	
	C	2事業 (50.0%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
●コスト	A	3事業 (75.0%)	1.8
	B	1事業 (25.0%)	
	C	事業 (0.0%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
●進捗率	A	2事業 (50.0%)	1.3
	B	1事業 (25.0%)	
	C	1事業 (25.0%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
※平均点は「A」2点、「B」1点、「C」0点として算出			1.3

⑪ 次年度以降の方針(主担当課)	現状維持	【説明欄】 引続き、近隣市町と連携し積極的な要望活動を実施していく。
委員会評価	現状維持	【委員会意見欄】 担当課評価のとおり。

# 施策評価表

令和4年度分

① 施策コード	8-3-2								
② 施策名	主要道路の整備	評価担当課	建設課	総合戦略	行政経営	過疎	○	-	○
③ 目標	幹線道路(国・県道)の整備に満足している町民の割合		生活道路(身近な道路)の整備に満足している町民の割合						
④ 現状と課題	◆ 広域幹線道路としては、相馬市～角田市～白石市を連絡する国道113号、角田市～福島県伊達市を連絡する国道349号が通っています。これらの路線と主要地方道3路線、一般県道7路線が接続し、幹線道路網が形成されています。 ◆ 生活道路については、これまで計画的に整備を進めてきましたが、多くの路線において、幅員が狭く、全体的に損傷が進んでいることから、計画的な改良・補修を行い、安全で快適な道路環境を整備が求められています。		施策の内容	町民の日常生活、物流等の経済活動を支える主要道路については、快適で利便性の高い道路環境の整備を進めます。また、子どもから高齢者の誰もが安心・安全に通行できる道路環境を提供します。					

## ⑥ 目標指標

指標名	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					計画目標値(R6年度)		
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	上段:達成率(R4実績/R4目標) 下段:達成率(R4実績/R5目標)	R6年度	達成率(R4実績/R6目標)
事業進捗率	%	0.0	50.00	50.00	50.00	60.00	60.00	0.80	100	0.48
			39.60	39.60	48.00	48.00		0.80		
道路改良率	%	67.9	69.00	69.44	69.44	69.44	69.44	1.00	70	0.99
			69.30	69.30	69.30	69.30		1.00		
まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					計画目標値(R6年度)		
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	上段:達成率(R4実績/R4目標) 下段:達成率(R4実績/R5目標)	R6年度	達成率(R4実績/R6目標)
事業進捗率	%	0.0	50.00	50.00	50.00	60.00	60.00	0.80	100	0.48
			39.60	39.60	48.00	48.00		0.80		
道路改良率	%	67.9	69.00	69.44	69.44	69.44	69.44	1.00	70	0.99
			69.30	69.30	69.30	69.30		1.00		

構成事務事業の事業費合計(単位:千円)

構成事務事業の事業費の合計	R元年度	R2年度	R3年度	令和4年度	令和5年度(計画)	令和6年度(計画)
	30,972	712	37,148	64,454	859,788	729,500

## 取組の総括

⑧ 1年間の主な取組と成果	「略」	
⑨ 施策の進行管理 (構成事務事業の評価結果をもとにした施策の進捗状況の判定)	△	【◎】おおむね順調 【○】いっそうの推進が必要 【△】抜本的に見直しや改善が必要
⑩ 今後の取組	「略」	

## 構成事務事業の評価結果

事務事業数	48	事業	平均点
●成果 A	3事業	(6.3%)	0.2
B	事業	(0.0%)	
C	1事業	(2.1%)	
未実施	26事業	(54.2%)	
●コスト A	4事業	(8.3%)	0.3
B	事業	(0.0%)	
C	事業	(0.0%)	
未実施	26事業	(54.2%)	
●進捗率 A	3事業	(6.3%)	0.2
B	事業	(0.0%)	
C	1事業	(2.1%)	
未実施	26事業	(54.2%)	平均点

※平均点は「A」2点、「B」1点、「C」0点として算出 0.2

⑪ 次年度以降の方針(主担当課)	拡大	【説明欄】 生活道路の整備については、災害復旧事業を優先に進めているが、復興復旧の進捗に伴い、令和5年度以降については、社協・道整備交付金等の補助金事業を活用し、復旧復興を支援する、快適で利便性の高い道路環境の整備を進めたい。
委員会評価	拡大	【委員会意見欄】 担当課評価のとおり。

# 施策評価表

令和4年度分

① 施策コード	8-3-3	評価担当課	建設課	総合戦略	行政経営	過疎
② 施策名	人にやさしい道路管理			-	-	○
③ 目標	幹線道路(国・県道)の整備に満足している町民の割合					
	生活道路(身近な道路)の整備に満足している町民の割合					
④ 現状と課題	◆ 広域幹線道路としては、相馬市～角田市～白石市を連絡する国道113号、角田市～福島県伊達市を連絡する国道349号が通っています。これらの路線と主要地方道3路線、一般県道7路線が接続し、幹線道路網が形成されています。 ◆ 生活道路については、これまで計画的に整備を進めてきましたが、多くの路線において、幅員が狭く、全体的に損傷が進んでいることから、計画的な改良・補修を行い、安全で快適な道路環境を整備が求められています。		施策の内容	道路交通の安全性・円滑性・快適性等を確保し、防災、ライフライン等の機能向上を図るため、町民と行政が協働により、歩行者と自動車に安全に通行できる道路の維持管理に努めます。		

## ⑥ 目標指標

指標名	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					計画目標値(R6年度)		
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	上段:達成率(R4実績/R4目標) 下段:達成率(R4実績/R5目標)	R6年度	達成率(R4実績/R6目標)
橋梁長寿命化計画策定	%	19.30	100	100	100	100	100	1.00	100	1.00
			100	100	100	100		1.00		
								#DIV/0!		#DIV/0!
								#DIV/0!		#DIV/0!
まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					計画目標値(R6年度)		
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	上段:達成率(R4実績/R4目標) 下段:達成率(R4実績/R5目標)	R6年度	達成率(R4実績/R6目標)
								#DIV/0!		#DIV/0!
								#DIV/0!		#DIV/0!

構成事務事業の事業費合計(単位:千円)

⑦ 構成事務事業の事業費の合計	R元年度	R2年度	R3年度	令和4年度	令和5年度(計画)	令和6年度(計画)
	134,404	79,992	94,068	109,193	81,792	120,671

## 取組の総括

⑧ 1年間の主な取組と成果	「略」	
⑨ 施策の進行管理 (構成事務事業の評価結果をもとにした施策の進捗状況の判定)	○	【◎】おおむね順調 【○】いっそうの推進が必要 【△】抜本的に見直しや改善が必要
⑩ 今後の取組	「略」	

## 構成事務事業の評価結果

事務事業数	9	事業	平均点
●成果	A	6事業 (66.7%)	1.4
	B	1事業 (11.1%)	
	C	1事業 (11.1%)	
	未実施	1事業 (11.1%)	
●コスト	A	2事業 (22.2%)	1.1
	B	6事業 (66.7%)	
	C	1事業 (0.0%)	
	未実施	1事業 (11.1%)	
●進捗率	A	1事業 (11.1%)	0.9
	B	6事業 (66.7%)	
	C	1事業 (11.1%)	
	未実施	1事業 (11.1%)	
※平均点は「A」2点、「B」1点、「C」0点として算出			1.1

⑪ 次年度以降の方針 (主担当課)	現状維持	【説明欄】 道路維持管理補修等については、道路パトロールや地域からの要望や情報により把握し、緊急性を踏まえ側溝、舗装等の補修や除草・除雪を実施する。 橋梁長寿命化については、修繕計画により計画的に長寿命化対策を実施する。
委員会評価	現状維持	【委員会意見欄】 担当課評価のとおり。

# 施策評価表

令和4年度分

① 施策コード	8・4・1								
② 施策名	安心・安全なおいしい水供給の推進	評価担当課	建設課	総合戦略	行政経営	過疎	○	-	○
③ 目標	上水道などの飲料水の確保に満足している町民の割合		施策の内容	安心・安全な水を安定的に供給するため、水道施設の適正な維持管理及び運営管理とともに、水道未給水区への水道施設等の整備を進めます。					
	下水道の整備と汚水や雨水の処理に満足している町民の割合								
④ 現状と課題	<p>◆ 本町は、集落が広範囲に散在しており、多様な地理的条件を有していることから、水道普及率が低迷しています。今後は水道水源の確保はもとより、地域それぞれの特性を生かした効率的な整備が必要です。</p> <p>◆ 公共下水道は、計画区域面積の89.4%(平成26年3月末日現在)まで整備が進んでおり、宅地への公共下水道は完了しています。今後は、水洗化の普及に努めるとともに、下水道等処理区域外の地区については、合併浄化槽の普及に努める必要があります。</p> <p>◆ 安全で安定的な水供給・処理を維持していくため、公共下水道及び農業集落排水施設の老朽化への対応や耐震性の向上など長期的な視点に立った維持管理が重要な課題となっています。</p>								

## ⑥ 目標指標

指標名	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					計画目標値(R6年度)		
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	上段:達成率(R4実績/R4目標) 下段:達成率(R4実績/R5目標)	R6年度	達成率(R4実績/R6目標)
行政区域内水道普及率	%	65.40	67.7	70.0	76.8	76.9	77.2	1.01	77.5	1.00
			72.7	72.1	77.8	77.5		1.00		
								#DIV/0!		
まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI		単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					計画目標値(R6年度)	
行政区域内水道普及率	%	65.40	67.7	70.0	76.8	76.9	77.2	1.01	77.5	1.00
			72.7	72.1	77.8	77.5		1.00		
								#DIV/0!		

構成事務事業の事業費合計(単位:千円)

⑦ 構成事務事業の事業費の合計	R元年度	R2年度	R3年度	令和4年度	令和5年度(計画)	令和6年度(計画)
	257,834	213,754	64,103	54,019	88,600	270,600

## 取組の総括

⑧ 1年間の主な取組と成果	「略」	
⑨ 施策の進行管理 (構成事務事業の評価結果をもとにした施策の進捗状況の判定)	◎	<p>【◎】おおむね順調</p> <p>【○】いっそうの推進が必要</p> <p>【△】抜本的に見直しや改善が必要</p>
⑩ 今後の取組	「略」	

## 構成事務事業の評価結果

事務事業数	7	事業	平均点
●成果	A	7事業 (100.0%)	2.0
	B	事業 (0.0%)	
	C	事業 (0.0%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
●コスト	A	6事業 (85.7%)	1.9
	B	1事業 (14.3%)	
	C	事業 (0.0%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
●進捗率	A	5事業 (71.4%)	1.7
	B	2事業 (28.6%)	
	C	事業 (0.0%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
※平均点は「A」2点、「B」1点、「C」0点として算出			1.9

⑪ 次年度以降の方針 (主担当課)	現状維持	【説明欄】 一部工事が完了していないため給水できない地区がある。配水ルートを変更し令和5年度内の工事完了を目標とする。令和4年度から3か年で老朽化した湖ノ上配水池の更新を実施し、安定した水道水の供給を図る。
委員会評価	現状維持	【委員会意見欄】 担当課評価のとおり。

# 施策評価表

令和4年度分

① 施策コード	8・4・2							
② 施策名	環境に配慮した水処理の推進	評価担当課	建設課	総合戦略	行政経営	過疎	-	-
③ 目標	上水道などの飲料水の確保に満足している町民の割合		下水道の整備と汚水や雨水の処理に満足している町民の割合					
④ 現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 本町は、集落が広範囲に散在しており、多様な地理的条件を有していることから、水道普及率が低迷しています。今後は水道水源の確保はもとより、地域それぞれの特性を生かした効率的な整備が必要です。</li> <li>◆ 公共下水道は、計画区域面積の89.4%(平成26年3月末日現在)まで整備が進んでおり、宅地への公共下水道は完了しています。今後は、水洗化の普及に努めるとともに、下水道等処理区域外の地区については、合併浄化槽の普及に努める必要があります。</li> <li>◆ 安全で安定的な水供給・処理を維持していくため、公共下水道及び農業集落排水施設の老朽化への対応や耐震性の向上など長期的な視点に立った維持管理が重要な課題となっています。</li> </ul>		施策の内容	衛生的で快適な暮らしを支え、公共用水域の環境負荷の低減をめざし、下水道・合併浄化槽による水洗化の普及を推進します。また、既存下水道施設等の長寿命化及び耐震対策による適正な維持管理を実施し、公衆衛生・生活環境の向上を図ります。				

## ⑥ 目標指標

指標名	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					計画目標値(R6年度)		
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	上段:達成率(R4実績/R4目標) 下段:達成率(R4実績/R5目標)	R6年度	達成率(R4実績/R6目標)
水洗化普及率	%	69.90	79.5	86.1	86.1	86.1	86.1	0.78	86.1	0.78
			66.0	66.0	65.7	67.3		0.78		
								#DIV/0!		
まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI										
まち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					計画目標値(R6年度)		
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	上段:達成率(R4実績/R4目標) 下段:達成率(R4実績/R5目標)	R6年度	達成率(R4実績/R6目標)
								#DIV/0!	#DIV/0!	

構成事務事業の事業費合計(単位:千円)

⑦ 構成事務事業の事業費の合計	R元年度	R2年度	R3年度	令和4年度	令和5年度(計画)	令和6年度(計画)
	59,531	615,080	301,801	636,578	2,288,500	152,500

## 取組の総括

⑧ 1年間の主な取組と成果	「略」
⑨ 施策の進行管理 (構成事務事業の評価結果をもとにした施策の進捗状況の判定)	◎ 【◎】おおむね順調 【○】いっそうの推進が必要 【△】抜本的に見直しや改善が必要
⑩ 今後の取組	「略」

## 構成事務事業の評価結果

事務事業数	8	事業	平均点
●成果	A	3事業 (37.5%)	1.4
	B	5事業 (62.5%)	
	C	事業 (0.0%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
●コスト	A	4事業 (50.0%)	1.5
	B	4事業 (50.0%)	
	C	事業 (0.0%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
●進捗率	A	2事業 (25.0%)	1.1
	B	5事業 (62.5%)	
	C	1事業 (12.5%)	
	未実施	事業 (0.0%)	
※平均点は「A」2点、「B」1点、「C」0点として算出			1.3

⑪ 次年度以降の方針 (主担当課)	現状維持	【説明欄】 適正な維持管理をするための施設の長寿命化対策を実施するとともに、将来に向けて下水道の維持管理費の削減と効率化を図るため、公共下水道と農業集落排水事業を併せた汚水処理の方法を検討する。 また、雨水ポンプの増設、直接放流管の整備を行い、床上・床下浸水被害の軽減を図る。
委員会評価	現状維持	【委員会意見欄】 担当課評価のとおり。